

大阪大学 図書館報

Vol.38 No.1 (2004年 6月)

目次

図書館と放射線科	1
自動貸出返却装置を導入しました。ご利用ください。	3
教員著作寄贈図書	3
お知らせ	5
会議・日誌	8

図書館と放射線科

中村仁信

子供のころから本が好きだったので、図書館は好きな場所だった。中学、高校一貫教育だったので、図書室は共通で中学生でも大人向けの本が読め、わくわくしながら本を探していた。受験勉強中、学校以外の図書館(市立の図書館や大きな団体の図書館)によく行ったが、休日にわざわざ出かけて行ったわりには、小説を読んでいた時間の方が多かった。クラブ活動は中学、高校、大学とずっとサッカー部だったが、高校時代は潰れかけていた文芸部に、阪大の教養時代は文芸メグ(Mög)というサークルにも属していて、詩や小

説を書いた。文芸 Mög の仲間だった柏木隆雄 教授(現、文学研究科長)によると、恐ろしいことに当時の作品がちゃんと残っているという。受験の時も、理工系の多い医学部志望者の中で、数学は人並みでも、国語、日本史で点数を稼ぐ文系人間であった。一番思い出の多いのは、医学部学生の頃の中之島図書館で、ある時期、数ヶ月にわたって朝 9 時から夕方 5 時まで毎日図書館で勉強して過ごされていた中堅クラスの外科の先生がおられた。後に某大学の教授になられた人で、米国の医師資格試験に合格するための勉強であっ

たと知ったが、考えてみれば図書館以外にそんなことができる場所はなかった。医学部を卒業して、超多忙人間の代名詞にもなっている研修医の頃や、図書館の大きな机に医学書や医学雑誌をいっぱい並べて論文を書き始めた頃も、時間があっても無くて中之島図書館にはよく行った。図書館はいつの時代でも心の安らぐ場所であった。

そんなわけで、図書館長には、たまたま運良く、なったようにみえるが、自分としては運命的なものを感じている。医学系研究科で臨床医学(病院の放射線科)を担当する教授が附属図書館長の重責を任うのは、これまで例がなく、いささか無理があるとは承知しているが、それを超越した、図書館への思いがあった。

病院での放射線科の仕事は、バラエティに富んでいる。画像診断、癌の放射線治療、IVR(カテーテルによる治療)などがあり、領域も広いが、最も多いのは放射線部で撮影したレントゲン写真、CT、MRIなどの画像の読影である。読影とは、画像の中にあるあらゆる情報を読み取り、整理統合して所見を記載することであるが、所見は画像とともに各診療科へ送付される。言うなれば中央診療部門として各科の診療を支援するサービス部門であり、画像に関しては情報発信の場でもある。このあたりは、図書館とも通じるものがある。今日の医療における画像診断の役割は極めて大きいことから、放射線科の質がその病院の医療レベルを左右すると言ってもよい。最近では、画像のほとんどがデジタル化されたことで、その伝送、保管もコンピュータ化されつつある。このようなシステムを PACS (Picture Archiving and Communicating System) と呼ぶが、完全 PACS 化、フィルムレスの病院が少しずつ増えている。それでは、われわれにはまだまだなじみの

深いレントゲンフィルムはいずれ無くなるのであろうか。答えはイエスである。フィルムレス化が急速に進んでいる理由のひとつに画像診断機器、特に CT の著しい進歩があり、日々膨大な数の画像を生み出している。これらの画像をすべてフィルムに焼き付け、保管スペースを確保することが困難になりつつあり、画像の読影もコンピュータ画面上で行わざるをえなくなっているからである。

一方、図書館の電子化を考える時、学術雑誌の電子ジャーナル化には十分対応しなければならぬが、本もフィルムのように電子化されて無くなっていくのだろうか。私にはそうは思えない。本には本そのものの価値があり、多くの人がどこでも読めるという利点がある。しかし、逆に言うと、その出版物が単なる情報を超えたものでなければ、いつまでも紙として残ることは難しいということになる。

情報発信ということで放射線科(部)と図書館を比べると、前者は情報を作成し、さらに配信まで行う。どちらかといえば情報の作成(画像の読影)の方が重要である。一方、図書館は情報を集約して管理し配信する、いわば中継拠点のようなもので、発信元から直接個々のユーザーへ配信されて図書館がスキップされることもある。ということから、図書館の電子化が進んで“紙”が少なくなればなるほど、その分、図書館の存在意義が低くなってしまわないかと私は思う。図書館長としては、情報と利用者を結びつける中継拠点としての役割をいかに強化するかを考えなければならないが、まず重要なのは、阪大図書館には無尽蔵にも思えるくらい本があり、探す人がいて、読む人、勉強する人のための十分なスペースが確保されていることである。

(なかむら・ひろのぶ 図書館長、医学系研究科教授)

自動貸出返却装置を導入しました。ご利用ください。

自動貸出返却装置が4台（本館3台、吹田分館1台）導入され、平成16年4月1日より稼働しています。みなさん、ぜひこの自動貸出返却装置をご利用ください。ご不明な点は各館メインカウンターでお尋ねください。

<設置場所>

本館：1台はメインカウンター中央、2台は参考カウンター前の柱のところ
吹田分館：旧館1階閲覧室



自動貸出返却装置（本館）

<対象資料>

本館：A棟学習用図書のみ（書庫棟研究用図書、雑誌、視聴覚資料はこの装置では利用できません。従来どおり、メインカウンターでお願いします。）

吹田分館：開架図書

<注意事項>

貸出・延長時：学生証（図書館利用者票）が必要です。取り忘れないようにお願いします。
貸出・返却・延長時：レシートがでますので、内容をご確認の上、お持ちください。

例）貸出時操作手順

貸出ボタンを押す 学生証を矢印の方向に入れる 画面で名前の確認 資料番号（バーコードラベル）を上にして、本の背を赤いバーにあてて置く。（1冊ずつ）画面で処理をした本の確認（数冊ある場合は下線部分を1冊ずつ繰り返す） 終了ボタンを押す レシートがでるので、貸出内容を確認 学生証をとる

上記の貸出例のように複数冊を処理する場合、積み重ねないで1冊ずつ置いてください。
なお、返却時は返却処理後、横の返却ブックトラックに図書を置いてください。

（情報サービス課・資料サービス掛）

教員著作寄贈図書

(2004.2～2004.5)

本館	
山口 節郎 (名誉教授)	現実の社会的構成：知識社会学論考 / ピーター・バーガー, トーマス・ルックマン著; 山口節郎訳 新版 東京：新曜社, 2003

大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文科学」	大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文科学」：大阪大学大学院文学研究科・人間科学研究科・言語文化研究科 2002・2003 年度報告書；1～8 豊中：大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文科学」，2003
大学院法学研究科	法科大学院の社会的役割と法曹養成：我が国の知的財産戦略をめぐって：大阪大学大学院法学研究科産学連携シンポジウム [豊中]：大阪大学大学院法学研究科，[2003]
大学院理学研究科数学教室	竹内勝先生メモリアル研究会 / 小林亮一編 (大阪大学数学講義録；v.7) 豊中：Osaka Mathematical Publications, 2002 Lectures on geometry and topology of polynomials：surrounding the Jacobian conjecture / Masayoshi Miyanishi (大阪大学数学講義録；v. 8) Toyonaka：Osaka Mathematical Publications, Department of Mathematics, Osaka University, 2002
留学生センター	大阪大学における日本語教育カリキュラム改革に関する全学アンケート調査報告書 吹田：大阪大学留学生センター，2003
大西 俊造 (名誉教授)	スタンダード冠理学 / 大西俊造, 梶原肇毅, 神山隆一編 第2版 東京：文光堂, 2004
湯浅 邦弘 (文 教授)	体験懷徳堂 / 湯浅邦弘編集 CD-ROM 協力(財)懷徳堂記念会 豊中：大阪大学大学院文学研究科，2004
生命科学分館	
藤崎 郁 (医 助教授)	フィジカルアセスメント完全ガイド / 藤崎郁執筆；伴信太郎医学監修・実村智尊 付属資料:CD-ROM(1枚 12cm) 東京：学研，2001
吹田分館	
中塚 信 (工 助教授)	エース建築構造材料学 / 中塚信 [ほか] 著 (エース建築工学シリーズ) 東京：朝倉書店, 2004
竹本 正 (接合研 教授)	アルミニウムプレーシングハンドブック / アルミニウムプレーシングハンドブック編集委員会編 改訂版 東京：軽金属容器構造協会，2003
高橋 理明 (名誉教授)	ワクチン今昔物語 / 高橋理明著；大島泰郎 [ほか] 編集 (未来の生物科学シリーズ；20) 東京：共立出版，1989

(敬称略：受付順)

お知らせ

大阪大学附属図書館図書館委員会の組織改組について

大阪大学附属図書館では大学の法人化に伴い、
図書館の運営事項を審議する図書館委員会を
組織改組しましたのでその概要をお知らせし

ます。

第 1 点目の変更点は、委員会の構成員が変
わりその人数が大幅にスリム化されたことで

す。各研究科等から選ばれた教授各2名であったものが各1名となりました。また、新たに高等司法研究科からの委員と大学教育実践センター長が委員として加わりました。その結果旧委員会では47名であったものが30名までスリム化されました。このことにより、委員会の開催が以前よりもスムーズに行えるようになりました。

第2点目の変更点は、委員会の年間開催回数を2回以上であったものから4回以上に増やしたことです。開催回数を増やすことにより、図書館としての重要事項の審議がより迅速に実施できるようになりました。大学や社会の変革に対応するスピードが求められてい

る時代に適応した変革といえます。

第3点目の変更点は、事故のため出席できない委員の代理人を教授に限定したことです。委員数を減らした代わりに、委員本人が出席できない場合でも、代理人として経験の豊富な教授の方に出席していただくようになりました。

以上の組織改組により、図書館としては法人化後の諸課題に対応し、利用者へのより良いサービスを提供するための土台作りができたといえます。この委員会を通じて、大阪大学附属図書館を利用される学内外の方々に様々な働きかけを実施したいと考えておりますのでご協力をお願いいたします。

人間科学研究科図書室業務の統合

附属図書館と人間科学研究科においては、業務統合による効率化及び利用者サービスの向上をはかることを目的に検討を重ねてきました。

本年4月より、人間科学研究科図書室においては、資料の貸出・返却等の一部のサービス業務を残し可能な限りの業務を生命科学分館に移し、集約することになりました。統合後の業務は以下の通りです。

1. 人間科学研究科図書室管理業務

1) 図書資料の関連業務

受入業務及び整理業務(分類・目録等)は生命科学分館に集約

2) 雑誌資料の関連業務

生命科学分館に集約

2. 人間科学研究科利用者へのサービス業務

1) 資料の貸出・返却・利用者票交付

従来通り、人間科学研究科図書室

2) 文献複写及び現物貸借の依頼

申込窓口：人間科学研究科図書室、
または生命科学分館参考調査掛
受取窓口：

- ・学内申込分は申込した窓口
- ・学外申込分は生命科学分館参考調査掛

但し、研究室直接送付も有(文献複写公費分)

3) 参考質問・調査

生命科学分館参考調査掛を主とする。

3. ILL 受付館窓口業務

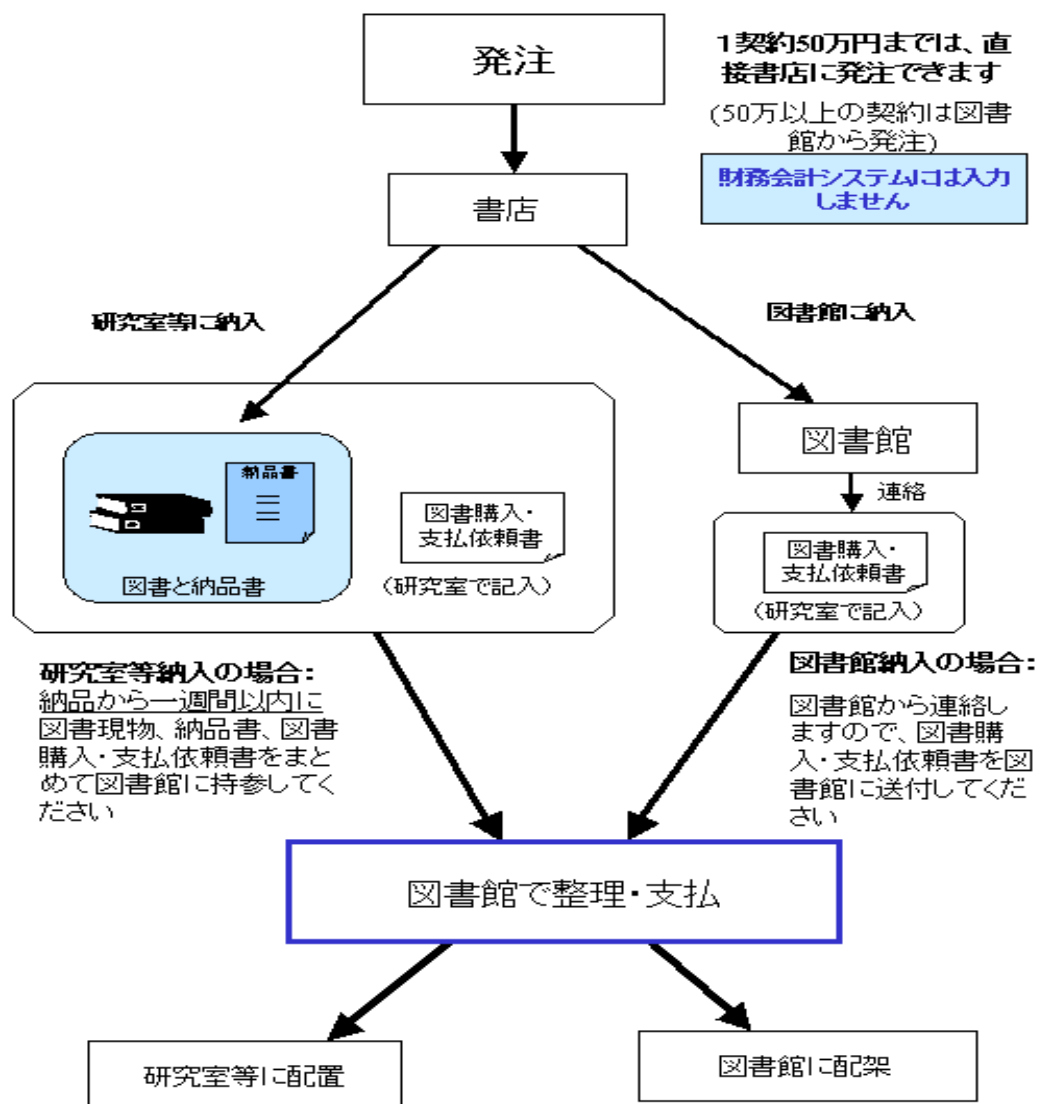
学外からの ILL 受付館窓口(文献複写及び現物貸借受付窓口)を、人間科学研究科図書室から生命科学分館資料サービス掛に変更

平成16年度からの図書購入について

大阪大学の法人化に伴い平成16年度からの図書購入の手続きが一部変わりました。

手続きの流れは次の図のとおりです。

平成16年度からの研究室購入図書の流れ



関連する注意事項。

・ 予算管理

図書館では研究室の予算管理ができませんので、執行額・残額確認をしながら発注してください。
予算を超えて発注した場合は、公費では支払えません。

・ 科研・委任経理金・受託研究費等で図書を

購入する

これらの予算で図書を購入する場合は、部局会計で支払手続きをしてください。
備品として購入した図書は、図書館で全て資産登録する必要があります。必要書類が部局会計から回送されますので、現物と一緒に図書館に持って来てください。

図書購入手続きに関する問い合わせ先： 附属図書館本館図書受入掛（内線5048）・
生命科学分館図書受入掛（内線2404）・吹田分館資料受入掛（内線7182）

本館参考調査掛カウンター移転

4月1日より本館参考調査掛が東出入口(基礎工学部前)参考・相互利用カウンターから正面玄関(浪高庭園前)のメインカウンターへ移転しました。資料の探し方や所在などについて、参考資料で調べてもわからないことがあ

りましたら、参考調査掛カウンターでおたずねください。

なお、複写申し込みと他大学図書館への紹介状は今までと同じ東出入口カウンター相互利用掛でお取り扱いしています。

図書館利用者説明会を開催

下記のとおり利用者説明会を実施しました。

	月日	時間	対象	内容	場所	参加数
本館	4/14,15,16	12:20 ~ 12:50	新入生	新入生のための図書館利用オリエンテーション	図書館ホール	363名
生命科学分館	4/5	13:30 ~ 13:45	医学系研究科医学科専攻修士・医学博士課程	ガイダンス「図書館の使い方」	医学部講義棟	約100名
	4/7	14:15 ~ 16:00	医学系研究科保健学科博士前・後期課程新入生	文献検索のしかた	医学部保健学科講義室	約100名
	4/12	13:45 ~ 14:45	日本語研修生	図書館の使い方	AVホール(生命科学分館)	30名
	4/20	9:00 ~ 12:00	歯学研究科博士課程新入生	大学院基本講義「図書館の使い方」	歯学部同窓会記念会館会議室	40名
	5/11,12,13	13:00 ~ 14:15	附属病院研修医	図書館の使い方	AVホール(生命科学分館)	56名
	5/11	17:30 ~ 19:00	附属病院看護師	図書館の使い方	AVホール(生命科学分館)	50名

いちよう祭展示会について

附属図書館では、文学研究科・文学部、法学研究科・法学部、経済学研究科・経済学部との合同開催で4月29日と30日の両日に

展示会を開催しました。これは、5月1日の大阪大学創立記念日を祝うとともに、新入生を歓迎する意味を込めて開催される大阪大学

いちよう祭の行事として毎年附属図書館を会場として行われているものです。

29日は祝日で好天に恵まれたこともあり373名、30日は129名、合計502名の入場者がありました。昨年の363名と比較すると約38%の増加となりました。展示会会場入場者にご協力いただいたアンケート（合計260名、回収率約52%）の結果に基づいて今年のいちよう祭展示会を振り返ってみます。

まず、入場者の内訳は、大阪大学構成員（学生、教職員等）が64名（約25%）、学外の方が150名（約58%）、その他は未記入（約17%）でした。

展示会の開催を何で知ったかとの問いに対しては、ポスター34名（13%）、看板47名（18%）、いちよう祭パンフレット17名（約6%）、展示会目録4名（約1.5%）、その他65名（25%）、未記入93名（約35%）という結果が出ています。その他の中には当日の館内放送、高校の先生の紹介、チラシ、図書館ホームページなどの記述がありました。

印象に残った展示内容は、との問いには複数回答可で答えをいただいております。18のカテゴリーに対してチェックをいただいた合計数は794件となりました。ベスト5を紹介させていただきます。第5位は「本学関係の文化勲章受章者業績顕彰」（59票）、第4位は「御成敗式目」（82票）、第3位は「古墳時代中期の武具と埴輪」（85票）、第2位は「適塾ゆかりの人々の書」（86票）、そして第1位は「五榜の掲示（五条の高札）第一札」（102票）でした。印象に残る展示物は、やはり視覚に強く訴えるものが上位にあるようです。

意見・感想の自由記述では様々なものがありました。好意的な意見・感想が多くありました。ここでは、主に建設的な意見をご紹介します。

- ・ 解読不能のものが多かった。全てに掛軸のように書き下し文があると解りやすい。
- ・ 静かすぎるので音楽を流したらどうか。順路がわかりにくいので（順路）表示があるといい。
- ・ 藩札についてのもっとくわしい解説があるといい。
- ・ 難しい漢字にはふりがなを振って欲しい。どういう関連性で展示されているのか不明。展示意図を明確にしてもらいたい。
- ・ 展示の文書類には内容を現代語表記にしたものをつけるかそれを目録にのせる等の工夫があると良かったと思う。

この他にも多数ご意見をいただきました。今後の参考にさせていただきます。

来年度のいちよう祭展示会はこのアンケート結果を生かし、より良いものにして行きたいと考えております。最後に関係者の皆様のご協力に感謝いたします。



五榜の高札（経済学研究科所蔵）

会 議

附属図書館研究開発室会議 2.16(月)14:00~15:00

現在の課題及び新たな課題について、協議された。

生命科学分館運営委員会(再掲) 2.19(木)10:00~12:00

1. 次期分館長候補について選挙の結果、辻本賀英教授が分館長候補となった。
2. 「生命科学分館のあり方」について平成16年度の継続検討事項となった。
3. 利用内規の情報公開対応について原案のとおり了承された。
4. 平成16年度電子的資料の対応について検討された。
5. 平成16年度の開館スケジュールについて原案のとおり了承された。

附属図書館豊中地区運営委員会 2.23(月)10:00~11:40

1. 平成16年度附属図書館本館の開館時間が承認された。
2. 大阪大学附属図書館本館利用内規の一部改正が承認された。

吹田地区運営委員会 2.24(火)10:00~11:50

1. 法人化後の吹田地区運営委員会組織について協議した。
2. 情報公開法に対応した吹田分館利用内規について協議した。
3. 吹田分館備付新聞・和雑誌の見直しについて協議した。
4. その他

図書館委員会 3.15(月)10:00~11:12

1. 平成17年度新規概算要求事項について、協議した。
2. 図書館体系検討委員会内規の廃止が承認された。
3. 附属図書館電子図書館システム専門委員会及び学術雑誌専門委員会を統合して、新たに附属図書館電子図書館専門委員会の設置及び同専門委員会内規が承認された。
4. 平成16年度データベース検索システム利用料金が承認された。
5. 平成16年度研究開発室室員の推薦について、候補者が決定された。

図書館委員会 4.27(火)10:00~11:47

1. 平成16年度重点経費・総長裁量経費の要求事項が承認された。
2. 「附属図書館文献複写規程」、「附属図書館文献複写料金後払い実施細則」及び「図書の不用品決定に関する処理要項」を制定した。
3. 平成16年度の図書館委員会の開催予定日時が次のとおり決定した。
第2回 平成16年 7月 6日(火)
第3回 平成16年10月12日(火) 午前10時から
第4回 平成17年 1月18日(火)

附属図書館豊中地区運営委員会 5.18(火)10:00~11:42

1. 附属図書館本館不用品決定基準が制定された。
2. 豊中地区図書選定小委員会設置要項の一部改正が承認された。
3. 豊中地区運営委員会の開催予定日時が次のとおり決定した。
第2回 平成16年 7月20日(火)
第3回 平成16年10月26日(火) 午前10時から
第4回 平成17年 2月 1日(火)

附属図書館電子図書館専門委員会 5.27(木)10:00~11:34

1. データベース検索システム経費について協議された。
2. 次期図書館業務システムについて、報告があった。

目 誌

- | | | |
|---------|--------------------|------------|
| 16.2.16 | 附属図書館研究開発室会議 | (本館) |
| 2.19 | 生命科学分館運営委員会 | (生命科学分館) |
| 2.23 | 附属図書館豊中地区運営委員会 | (本館) |
| 2.24 | 吹田地区運営委員会 | (吹田分館) |
| 3.15 | 図書館委員会 | (本館) |
| 4.23 | 国立大学図書館協会近畿地区協会総会 | (京都大学) |
| 4.27 | 図書館委員会 | (本館) |
| 5.7 | 近畿地区医学図書館協議会例会 | (近畿大学) |
| 5.18 | 附属図書館豊中地区運営委員会 | (本館) |
| 5.19 | 外国雑誌センター館会議 | (東京工業大学) |
| 5.20 | 国立大学図書館協会賞受賞者選考委員会 | (東京大学) |
| | 国立大学図書館協会常務理事会 | (東京大学) |
| 5.21 | 国立大学図書館協会理事会 | (東京大学) |
| 5.27 | 附属図書館電子図書館専門委員会 | (本館) |
| 5.27~28 | 日本医学図書館協会総会 | (学術総合センター) |

大阪大学図書館報 Vol.38 No.1 通巻 150号 2004年6月30日発行
発行 大阪大学附属図書館 〒560-0043 豊中市待兼山町1の4 06(6850)5070
e-mail : sanko-honkan@library.osaka-u.ac.jp